

【古事記を奏でるピアニスト】

神武 夏子

さん



写真 = 長坂芳樹 / すみだトリフォニーホール

パリ留学から帰国すると、注目され始めていたサティの、その自由な音楽空間に衝撃を受け、自ら本格的な演奏、紹介に着手。三・一一東日本大震災では心を揺さぶられ、日本人の原点に立ち返ろうと、古事記をテーマに作曲・演奏に取り組む。

Human-Report

……人間大好き……

346

●こうたけ・なつこ
ピアニスト、作曲家、朗読家。武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。フランス留学後、演奏家としてデビュー。エリック・サティと「フランス6人組」の音楽世界を、精力的に紹介。2012年以降、古事記をテーマに、音楽と語りによるユニークなコンサートを企画・プロデュース・演奏している。CD作品に『カフェ・デ・シス』、『カフェ・プーランク』、CDブック『古事記を奏でる』(株)ナチュラルスピリット)など。

——小さい時はどんなお子さんでしたか。

神武 小学校では優等生で、いわゆる良
い子(笑)。父が大学教授、母が高校教師
という教育者の家庭に育ったので、外で
は良い子を演じていたのかも。でも実は、
家に帰るとお転婆で活発な子でしたね。
自宅は世田谷区の梅丘にあり、私はいま
も住んでいます。当時は庭に大きなヒ
マラヤ杉が植えられていて、妹と二人し
て木登りしては太い枝に腰かけて遠くを
眺めていたり。

——まるでアニメ映画『トトロ』のサツ
キとメイ姉妹のようですね。ところで、
ピアノを習い始めたのは何歳の時ですか。
神武 4歳ですね。叔母が音大卒でピア
ノ教師の資格をもち、コンクールでも入
賞するような演奏家だったので、否応な
く通わされたというか。ものすごく怖い
存在でしたね。レッスンは週に一回、土

曜日に叔母の家まで通うんです。子ども

ですから普段から十分に練習するってこ
とはなく、金曜の夜になるとやつついで
おさらいして翌日レッスンに行く。当然、
厳しく叱られます。もう、子ども時代は
叔母の家からよく泣いて帰宅したという
記憶があります。振り返ってみると、型
にはめられるのを拒むという性格は、い
まだに治っていないのかも。高校時代に
は、ピアノをやめようと真剣に考えてい
ましたから。大学受験直前まで、父親の
影響で経済学を学ぼうと思いい、そのため
の試験準備をしていました。

——音大を受験する気はなかった？

神武 全然。両親にならって教師になろ
うかな、なんて考えてみたり。そこでハ
タと気づいたんです。女が手に職をつけ
るんだったら、ピアノ教師の道があるん
じゃないか、と(笑)。それが高校3年生

の九月。そうだったら、レッスンをサボ
り気味だった叔母のもとに駆けつけ、平
身低頭して音大受験用のピアノ特訓をお
願いして。集中力には自信があったので、
がむしゃらに練習して、めでたく武蔵野
音大に滑り込むわけです。

難病のおかげで ピアノ演奏家の道へ

神武 当時はまさかプロの演奏家になる
つもりもなく、短大に進学。卒業が近づ
くと、周りが四年制に進学するという
ので、つられて編入試験を受け四年制
へ。自分が何をやりたいのかわからなく
なっていた時代ですね。そんな時に麻雀
を知ったら病みつきになってしまい、雀
荘浸り。プロの女雀士になってやろうか、
というぐらいハマってしまっ。あまり

練習に打ち込むことなく卒業を迎え、自宅でピアノでも教えようかなあ、などと暢気なことを考えていたら大ドンデン返しが待ち構えていたのです。

——麻雀漬け生活の挙句、大ドンデン返しというのは、なんだか怖い話ですね。

神武 ええ、突然、手指を始め全身の筋肉が動きづらくなり、病院で診てもらったら神経不全の難病ギラン・バレー症候群と診断されて。お医者さまに「一生、車椅子生活になるかも」と告げられた時は、目の前が真っ暗になり、徹マンの報いかと絶望しました。この病気の治療には血漿交換法とか免疫療法とかあるのですが、はかばかしい結果が得られない。当時、母が鍼灸師の資格を取っており、その縁で方々を探し回り、漢方の名医にやっとたどり着いたのです。先生曰く「大変な病気ですが、一緒に回復を目指しましょう」。ともに病気を克服しようという言葉に励まされました。

——どのような治療を受けたのですか。

神武 先生の指示はまず、漢方の服用以外に手指の運動を欠かさないこと。同時に、全身の筋肉を適度に刺激する運動を継続的に行うこと。その時、絶えず手指を動かすのなら、ピアノの練習が一番とすぐ思いま



した。また、全身運動の方は低山登りが最適というので、定期的に高尾山登山を繰り返しました。この漢方の先生は、時間に余裕のある時は何度となく私の山歩きに付き合ってくださいました。

——現在はコンサート活動もされ、ギラン・バレー症候群は完治したのですか。

神武 とりあえず、罹患から2年ほど経ち、なんとか全身の筋肉がスムーズに動くようになった時から、治ったと思うことにしています。結局、私がコンサート活動をするようなピアニストになれたのは、病気からの回復を目指して必死にピアノの鍵盤に触り続けた2年間があったからではないかと、なんだか不思議な気がします。

サティの音楽空間は 俳句や和歌のよう

神武 難病にかかったおかげでピアノへの情熱を取り戻し、さてこれからどうしようと考えた時に、妹が定住するパリへ音楽留学することになりました。日本のクラシック界は緻密で構築的、壮大で権威的なドイツ音楽が主流なのですが、私自身は流麗でエレガント、メロディックで自由な雰囲気をもつフランス音楽への憧れがありました。実際にパリを訪れ、最初のうちは女性たちのファッションや異国の風景に酔ったように過ごしていましたが、しばらくするうちに数百年変わらない石造りの壮麗な建築や、実際に話してみると、案外頑固で自らの意見を主張してやまない、パリっ子の強靱な性格に圧倒される思いがしてきたのです。たった一年間のパリ留学でしたが、思いもよらず自分自身が育った日本という国を見つめなおす機会にもなり、これまでは気がつかなかった日本の伝統の奥深さや、日本人の心の優しさや慎ましさが好きらしく思われてきたのです。

——パリでの音楽留学を終え、日本で演



奏活動を始められるわけですが：

神武 パリから帰国すると、高橋アキさんなど一部の先鋭なピアニストがエリック・サティの楽曲に注目し、演奏し始めていました。サティのシンプルで唯一無二の音楽空間に惹かれていた私は、「エスプリに満ちたサティの音楽を私独自の流儀で日本に紹介したい」と思い立ちました。また、サティの楽曲は譜面を見ても音符が少なく、余白の多い水墨画とか、少ない言葉数で広がりのある空間を表現する、日本の俳句や和歌に通じる魅力があると思います。一九二〇年代というパリで各種の芸術が花開いた時期とあわせ、サティやその後継者とされるフラン

ス6人組（ミヨー、オネゲル、プーランク、タイユフェール、オーリック、デュレ）のことを、わかりやすい解説とともに紹介するサロン・コンサートやリサイタルを帰国以来、数多く開いてきました。

大震災を機に 古事記をテーマに作曲・演奏

——最近、古事記をテーマに演奏のみならず作曲も手掛けていると聞きますが。
神武 二〇一一年の東日本大震災がきっかけです。大地震と津波による非常事態で、生まれ故郷に戻れない数万の住民がいまもなお避難生活を送る。大変な災害

に愕然がくぜんとしました。また、こうした国難の時にこそ、日本の伝統や困難に耐え抜く日本人の精神力の源に立ち返る必要を感じました。編纂へんさん後千三百年余を経る古事記には、日本という国の成り立ちや日本人の精神形成を物語る神話、物語が数多く記されています。古事記の精髓を平易に語り、作曲し演奏することは多くの人々に困難から立ち上がる勇気を与えると考えたのです。加えて、母方の祖父が近江神宮の宮司、また神武一族が福岡県・宇美八幡宮うみの社家筆頭であったりという、古事記にも登場する日本の神々との少なからぬ御縁もあり、一層、古事記の内容を読み解き、楽曲に創作することは、私自身の使命とも感じられます。

——この2月にはすみだトリフォニーホールでのリサイタルが控えているとか。
神武 はい、トリフォニーホールがある墨田区は、古事記ともゆかりが深いのです。同区の吾嬬神社あずまは日本武尊東征の折、荒れ狂う海に身を投じた弟橘姫おとたちばなひめの着衣が流れ着いたとされる場所に建てられています。ホールのお隣は「東武ホテルレバント東京」、また近景には東京スカイツリー®が望めるなど、絶好のロケーションも楽しみです。